

2025年02月

第090回

預金通帳だけで経営管理ができるのか?(01)

「業務がうまく回っており、儲かっており、資金が潤沢にあり、預金が減らなければ、それでよし。」というのであれば、「預金通帳」だけで経営管理すればよいかもしれない(職業柄、断言はしない)。定期的に預金残高の増減を確かめればよい。このような経営者は実際に存在する(お願が目に浮かぶ)。善し悪しではなく必要性の問題である。

しかし、裏を返せば、「業務に改善の余地があり、あまり儲かっておらず、資金繰りが楽ではなく、預金が増えず、現状に満足していない。」というのであれば、「預金通帳」を眺めているだけでは、経営管理に必要な情報は得られない。

そもそも、経営管理とは、経営目標を達成するために会社の業務を管理する事である。前述の「預金通帳」を眺めるだけで済む経営者は、経営目標が明確であり、経営目標を達成しているのである。一方、現状に不満のある経営者は、経営目標(?)を達成していないのだから、現状を正しく認識し、対応策を考え、業務を改善する必要がある。その柱となるのが「財務数値」である。「財務数値」そのものと、「財務数値」の前後のプロセスについて、今後考察していく。

江幡 淳